

地域計画

策定年月日	令和7年3月26日
更新年月日	( )
目標年度	令和16年度
市町村名 (市町村コード)	尾花沢市 ( `06212 )
地域名 (地域内農業集落名)	尾花沢地区 (二藤袋、横内 五十沢、牛房野 田沢 和合、尾花沢 朧気)

注:「地域名」欄には、協議の場が設けられた区域及び農林業センサスの農業集落名を記載しています。

1 地域における農業の将来の在り方

(1) 地域計画の区域の状況

区域内の農用地等面積(農業上の利用が行われる農用地等の区域)	1285 ha
① 農業振興地域のうち農用地区域内の農地面積	1032 ha
② 田の面積	755 ha
③ 畑の面積(果樹、茶等を含む)	262 ha
④ 区域内において、規模縮小などの意向のある農地面積の合計	7 ha
⑤ 区域内において、今後農業を担う者が引き受ける意向のある農地面積の合計	183 ha
(参考) 区域内における〇才以上の農業者の農地面積の合計	ha
うち後継者不在の農業者の農地面積の合計	ha
(備考)	

注1:②及び③については、農業委員会の農地台帳の面積(現況地目)に基づき記載しています。

2:④については、規模縮小又は離農の意向のある農地面積、⑤については、引き受ける意向のある農地面積を記載していません。

(2) 地域農業の現状及び課題

当地区では、水稻を基幹作物として、すいか、そばの作付けが多く、その他には、野菜苗・花苗、えごま等の作付けや、繁殖牛・肥育牛の畜産経営が行われている。

当地区の市中心部に位置する集落・地域では、基盤整備済みのほ場が多いことから、市内の他の地区からの入作が多くみられ、担い手は確保されている状況となっている。また、すいかについては、高収益作物であることから、新規就農者などの参入も見られる。しかし、地区内と地区外の担い手が入り交ざって耕作している状況となっているため、農地の集約化は進んでおらず、効率的な生産が出来ていない状況となっている。

一方、当地区の山沿いの集落・地域では、農業者の高齢化による離農と後継者不足により、耕作放棄地の増加が懸念されており、今後、担い手の育成・確保が課題となっている。

(3) 地域における農業の将来の在り方

当地区においては、地区外からの入作が多いことで集約化が進んでいない地域もあり、作業効率が上がらない状況となっているため、今後は、農地中間管理機構を活用するなどして、農地の交換による集約化や連担化を進め、作業効率の良い農業を目指していく。

一方、当地区の山沿いの集落・地域では、担い手が少ないことから、現状を出来るだけ維持しつつ、他の集落や地区から担い手を確保するなどして、出来るだけ多くの農地を守っていくことに取り組んでいく。また、基盤整備を行うことで、水田の集約化・規模拡大を図り、地区内外の担い手を受け入れやすい環境づくりを進めることについても検討していく。

すいかについては、今後も当地区の栽培に適した土壌で生産した良食味のすいかの販売に取り組んでいくが、新たに、すいかを含めた野菜の加工・販売などにも取り組んでいく。

2 農業の将来の在り方に向けた農用地の効率的かつ総合的な利用に関する目標

(1)農用地の効率的かつ総合的な利用に関する方針			
<p>地域計画の実現に向けて、農地中間管理事業等を活用して、農用地について担い手への集積・集約化を促進し、農用地の効率的かつ総合的な利用の促進を図る(目標年次は、概ね令和9年度)。                  平坦地域においては、ほ場整備事業によるほ場区画の大型化を図り効率的な生産を推進。中山間地域では、担い手への農用地の集積を推進し、遊休農地の解消に努める。</p>			
(2)担い手(効率的かつ安定的な経営を営む者)に対する農用地の集積に関する目標			
現状の集積率	68.8	%	将来の目標とする集積率
			80 %
(3)農用地の集団化(集約化)に関する目標			
<p>地域計画策定に係る地域の話し合いなどで合意形成を図りながら、担い手への農用地の集積を加速するとともに、面としてまとまった形での農用地の集約化を進めることにより、団地面積の増加を図る。</p>			

3 農業者及び区域内の関係者が2の目標を達成するためとるべき必要な措置

(1)農用地の集積・集団化の取組	
<p>担い手への農地の集積は進んでいるので、今後は農地中間管理機構を通じた農地の貸借などにより、担い手間の農地の交換などによる農地の集約化に取り組む必要があると考える。                  また、すいかの栽培に適した黒ボク土壌のほ場にすいかを団地化して、水稻を作付けるほ場とエリア分けすることなどについても、今後、検討を進める。</p>	
(2)農地中間管理機構の活用方法	
<p>農地中間管理機構を活用して担い手への農用地の集積・集約化を進めていくことで、農用地の効率的な活用及び低コスト化を図る。</p>	
(3)基盤整備事業への取組	
<p>現在、隴気川周辺の地域で、基盤整備を行う方向で検討を進めているところだが、他の小区画の水田が多い担い手が少ない地域でも、生産効率の向上を図り、地区内・外からの担い手の呼び込みに繋げるため、農家負担ゼロの「農地中間管理機構関連農地整備事業」の活用も含めて、今後、基盤整備を行うかどうか、集落・地域で検討を進める。                  また、すいかの作付けが多い地域でも、基盤整備を行ったうえで団地化していくことを検討していく。</p>	
(4)多様な経営体の確保・育成の取組	
<p>担い手が確保されている集落・地域もあるが、担い手が十分確保されていない集落・地域では、市や県、農業団体等との連携を強化して、新規就農者の発掘・育成に取り組んでいく。</p>	
(5)農業協同組合等の農業支援サービス事業者等への農作業委託の取組	
<p>転作作物の「そば」を効率的に低コストで生産するため、法人や転作組合を今後も活用していく。</p>	

以下任意記載事項(地域の実情に応じて、必要な事項を選択し、取組内容を記載してください)

✓	①鳥獣被害防止対策		②有機・減農薬・減肥料	✓	③スマート農業		④輸出		⑤果樹等
	⑥燃料・資源作物等	✓	⑦保全・管理等		⑧農業用施設		⑨その他		

【選択した上記の取組内容】

- ① 山沿いの地域・集落では、既に獣被害(猪)が多発しており、他の地域でも今後、被害が増えると想定されることから、被害が出ている水田や畑に電気柵を設置するなどして被害を防止する。
- ③ ドローンによる薬剤散布などから導入を検討していく。
- ⑦ 中山間地域等直接支払交付金や多面的機能支払交付金を活用した取り組みとして、今後も除草による農地の保全や水路の管理などに取り組んでいく。

4 地域内の農業を担う者一覧(目標地図に位置付ける者)

属性	農業を担う者 (氏名・名称)	現状			10年後 (目標年度:令和 16 年度)				
		経営作目等	経営面積	作業受託 面積	経営作目等	経営面積	作業受託 面積	目標地図 上の表示	備考
			ha	ha		ha	ha		
			ha	ha		ha	ha		
	別紙のとおり		ha	ha		ha	ha		
			ha	ha		ha	ha		
			ha	ha		ha	ha		
			ha	ha		ha	ha		
			ha	ha		ha	ha		
			ha	ha		ha	ha		
			ha	ha		ha	ha		
			ha	ha		ha	ha		
			ha	ha		ha	ha		
			ha	ha		ha	ha		
			ha	ha		ha	ha		
			ha	ha		ha	ha		
			ha	ha		ha	ha		
計			ha	ha		ha	ha		

注1:「属性」欄には、認定農業は「認農」、認定新規就農者は「認就」、農業支援サービス事業者(農協を除く)は「サ」、上記に該当しない農用地等を継続的に利用する者は「利」の属性を記載しています。

2:「経営面積」「作業受託面積」欄には、地域計画の対象地域内における農業を担う者の経営面積、作業受託面積を記載しています。

5 農業支援サービス事業者一覧(任意記載事項)

番号	事業体名 (氏名・名称)	作業内容	対象品目
1	そば作り振興会	播種、収穫、乾燥調製	そば
2	農事組合法人魁	播種、収穫、乾燥調製	そば
3	玉野東部営農組合	播種、収穫、乾燥調製	そば
4	鶴巻田そば営農組合	播種、収穫、乾燥調製	そば

6 目標地図(別添のとおり)